小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

坂出市立西庄小学校

関連項目：教育活動プラン③、④、⑥

多様な関わり方を通して望ましい人間関係の構築を目指す

目的

本校は児童数７９名という小規模校です。そのため人間関係が固定化され，どうしても狭くなりがちです。そこで，逆に小規模校の特色を生かした異年齢集団活動を多く取り入れることにより，下学年は上学年に尊敬の念を，上学年は下学年に大らかな愛情を持って接することの出来る温かい人間関係の育成を目指しています。また，高学年になると，大島青松園の見学や地域の保育所への職場体験学習等，多様な関わり方を取り入れて，人権について深く考える機会をとっています。

内容

● 異学年集団「ほほえみグループ」による活動

本校では，全校生７９名を各学年２～３名の計１３名ほどの６のグループに分け，グループ旗を作成し，それぞれいろいろな学校行事の中で協力したり，競い合ったりしながら，異学年による友だち同士の絆を深めようとしています。本年度は，運動会の競争種目（タイヤ奪い競争・綱引き・リレー），さつまいもの栽培・収穫・焼きいも大会，キックベースボール大会，お昼の自由遊び，スピーチ大会，なわとび大会などをほほえみグループごとに実施しました。

初めてボールを蹴ったよ！

● きらきらポストの設置

今年度は，それらの活動の中で，特にお世話になった友だちへお礼の言葉を贈ろうということで，児童会が中心となり，「きらきらポスト」を設置し，友だちのよさを書いた手紙をお昼の放送で全校生に紹介する機会を設定しました。名前を放送されると照れくさがる子もいますが，誰もがうれしそうに放送を聞いていました。人数が少ない分，いろいろな学年の子たちから認められることが，自己有用感を高め，主体的に活動しようという意識を高めることにつなげることができたと考えます。

友だちのよいところを書いたよ

● 高学年による大島青松園訪問や６年生の職場体験学習

高学年は，大島青松園に見学に行き，不当な差別で苦しんできたハンセン病回復者の方の話を聞き，自分たちが不当な差別を目の当たりにしたとき，どのような行動をとらなければならないのかについて深く考える機会をもちました。

また，６年生は地域の保育所に職場体験学習に行き，無邪気な幼児の世話をすることの大変さを実感すると同時に，そこで生き生きと働く保育士さんたちの明るい笑顔に，仕事をすることの意義と大切さを感じ取ったようでした。

とても信じられない話だった

成果

少人数の学級だと，意見交流の相手が制限されるので，多様な意見で自分たちの考えを高め合うということができにくいです。そこで，縦割り集団活動を取り入れることにより，低学年は高学年の考え方を学ぶことができます。また，高学年は学校外の方から，その人の生き方を学ぶ機会を設定することによって，人が生きていく上で何を大切にしなければならないのかについて，深く考えていくよい機会となっています。